

# 堆肥の地域内循環を目指した「有機の里」を構築（丹波市）

農地の土壌改良及び地力増進を図り、農産物の品質の向上を目的に堆肥化施設を整備。  
JAと連携し、堆肥の利用拡大を推進。



【丹波市立市島有機センター】

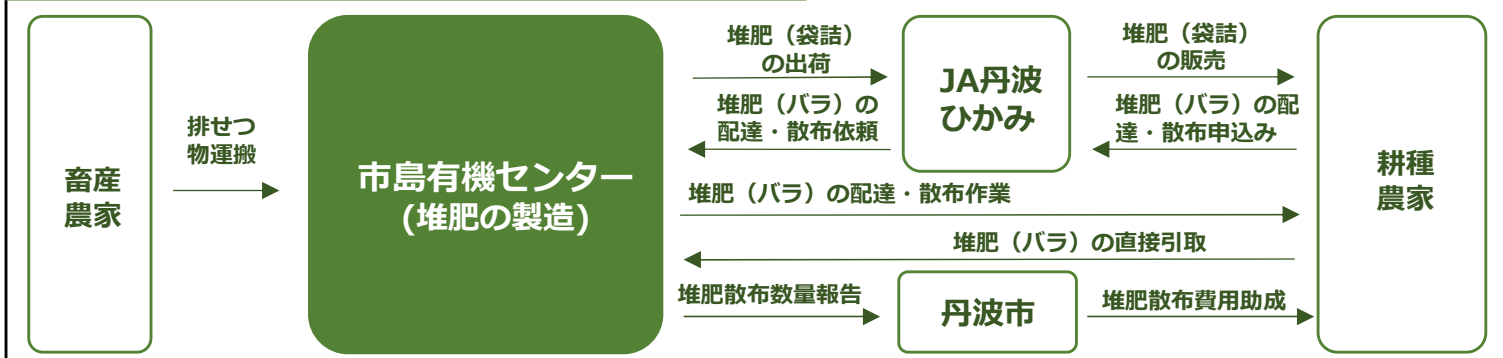


【堆肥製造作業】

## 1. 取組概要

- 堆肥化施設である丹波市立市島有機センターは、丹波市（旧市島町）が平成3年度に耕畜連携の拠点施設として設置。
- 施設は丹波市が運営し、地域の10戸の畜産農家から待ち込まれた排せつ物や地域内で排出されるもみ殻等の副産物を利用し堆肥を製造。
- 製造された堆肥は、「有機JAS規格に基づく使用可能資材リスト」登録されており、有機農家や市内の耕種農家が安心して使用できる堆肥となっている。
- 有機センターでは堆肥のバラを直接販売しており、JA丹波ひかみでは袋詰め販売をしている。
- JA丹波ひかみが窓口となり堆肥の配達・散布を受付し、有機センターで丹波市内に配達・散布を行っている。（市外は有機センターから片道15km以内で配達のみ行っている）
- 堆肥散布は、有機農家を中心に、水稻、野菜、果樹での需要が多い。
- 丹波市は、環境にやさしい農業の推進と畜産環境対策として、市内で生産された堆肥を一定量以上散布した耕種農家に対して、散布費用の5分の1を補助。

## 2. 堆肥の製造・利用の体制図



## 3. 実績（令和6年度）

家畜排せつ物受入実績：7,305 t  
 施設利用畜産農家数：10戸（酪農2戸、肥育8戸）（飼養頭数 約1,500頭）  
 堆肥出荷実績：2,850 t  
     バラ出荷：2,788 t（配達・散布：2,564t、引取：224t）、袋詰め62t  
 堆肥散布面積：約150ha  
 有機農業取組：生産者133名、面積約197ha（市内全耕地面積の約4%）